

## 研修会報告

研修会名：ISO15189 研修会      テーマ：ISO15189 取得から活用まで

開催日時：平成 29 年 6 月 10 日    15：10～17：00 まで

場所：仙台市急患センター2F ホール

内容

司会：大崎市民病院 大柳政一

講演 1

座長：登米市民病院 石川和浩

「ISO15189 を取り巻く環境」

シスメックス株式会社 学術推進部

ラボラトリーサポート推進課 身野 健二郎 先生

講演2

座長：大崎市民病院 大柳政一

「ISO15189～いかに検査室運営に役立てるか～」

熊本保健科学大学 大学院保健科学研究科

保健科学部 医学検査学科 池田 勝義 先生

参加者：会員 76 名 賛助会員 7 名 合計 83 名

<感想>

平成 29 年度宮臨技定時総会後に開催した「ISO15189 研修会に」について報告する。

ISO15189（以下 ISO）は昨年 4 月の診療報酬改定で 40 点の保険点数が付き、取得する施設が急増している。今回、宮臨技として初めて ISO の研修会を開催したが、この分野の研修会は管理職向けであり参加人数が少ない傾向だが、参加人数が 80 名を超え、会員の関心の高さか伺えた。

講演 1 は ISO 取得支援事業を行っているシスメックス株式会社学術推進部の身野先生から ISO 取得についての要求事項や審査のプロセスなどについて説明があった。現在国内では 117 施設が認定施設として登録されており、さらに現在申請中も含め益々増加している。また海外において、特にヨーロッパでは法令で ISO 取得が義務化されている国があるなど、日本はまだ遅れていると感じた。

講演 2 は熊本保健化学大学の池田先生から熊本大学医学部附属病院時代に ISO を取得され、ISO を用いた検査室の運営に携わった経験を基に講演していただいた。我々が通常業務で報告しているデータは疾患の診断や治療の経過観察、健康管理などに必須の情報であり、常に高品質のデータ提供が求められる。ご自身の経験から ISO の取得はゴールではなく、検査室運営の良きツールで有り検査部全員が ISO を理解し、PDCA サイクロを回し、スパイラルアップすることが重要と話されていた。今後 ISO 取得を検討している施設の技師には大変参考になる研修会になった。宮臨技として今後も ISO 関連の研修会を企画していきたい。

文責 宮臨技副会長 大柳政一

